

第2章 揖斐川町の地域福祉の現状と課題

1 地域福祉にかかわる現状

(1) 人口や世帯

①年齢層別の人口

揖斐川町の人口は年々減少しています。その中で、高齢者人口は増加しており、平成20年の高齢化率（65歳以上）は28.2%となっています。

地区別でみると春日、久瀬、藤橋、坂内地区で高齢化が著しく、特に坂内地区では高齢化率が50%を超えています。

高齢者人口の増加に対し、年少人口は減少しており、平成20年の年少人口割合（14歳以下）は12.3%となっています。

地区別でみると春日、久瀬、藤橋、坂内地区で年少人口割合が低く、特に坂内地区は5.7%となっています。

表2-1 年齢層構成別人口（住民基本台帳）の推移

単位：人

		平成17年	平成18年	平成19年	平成20年
北方	0～14歳	237	247	258	269
	15～64歳	1,238	1,216	1,238	1,202
	65歳以上	535	548	557	556
	総数	2,010	2,011	2,053	2,027
大和	0～14歳	465	444	425	430
	15～64歳	2,310	2,281	2,216	2,173
	65歳以上	687	690	692	698
	総数	3,462	3,415	3,333	3,301
揖斐	0～14歳	618	605	579	552
	15～64歳	2,695	2,644	2,522	2,429
	65歳以上	1,082	1,095	1,115	1,130
	総数	4,395	4,344	4,216	4,111
清水	0～14歳	312	313	307	308
	15～64歳	1,323	1,307	1,288	1,283
	65歳以上	484	521	535	558
	総数	2,119	2,141	2,130	2,149

		平成17年	平成18年	平成19年	平成20年
脛永	0～14 歳	287	286	287	295
	15～64 歳	1, 287	1, 265	1, 260	1, 237
	65 歳以上	458	467	479	492
	総数	2, 032	2, 018	2, 026	2, 024
小島	0～14 歳	621	592	582	584
	15～64 歳	3, 190	3, 112	3, 058	2, 992
	65 歳以上	981	1, 001	1, 005	1, 038
	総数	4, 792	4, 705	4, 645	4, 614
谷汲	0～14 歳	471	449	431	411
	15～64 歳	2, 227	2, 161	2, 117	2, 091
	65 歳以上	1, 053	1, 072	1, 084	1, 086
	総数	3, 751	3, 682	3, 632	3, 588
春日	0～14 歳	145	134	121	117
	15～64 歳	766	730	697	673
	65 歳以上	679	681	674	652
	総数	1, 590	1, 545	1, 492	1, 442
久瀬	0～14 歳	158	140	129	109
	15～64 歳	736	717	680	638
	65 歳以上	543	535	520	513
	総数	1, 437	1, 392	1, 329	1, 260
藤橋	0～14 歳	38	27	24	26
	15～64 歳	228	188	168	152
	65 歳以上	142	147	139	136
	総数	408	362	331	314
坂内	0～14 歳	35	34	31	30
	15～64 歳	216	210	207	202
	65 歳以上	310	307	301	295
	総数	561	551	539	527
計	0～14 歳	3, 387	3, 271	3, 174	3, 131
	15～64 歳	16, 216	15, 831	15, 451	15, 072
	65 歳以上	6, 954	7, 064	7, 101	7, 154
	総人口	26, 557	26, 166	25, 726	25, 357

資料：住民基本台帳（各年3月末時点）

図 2-1 総人口の推移

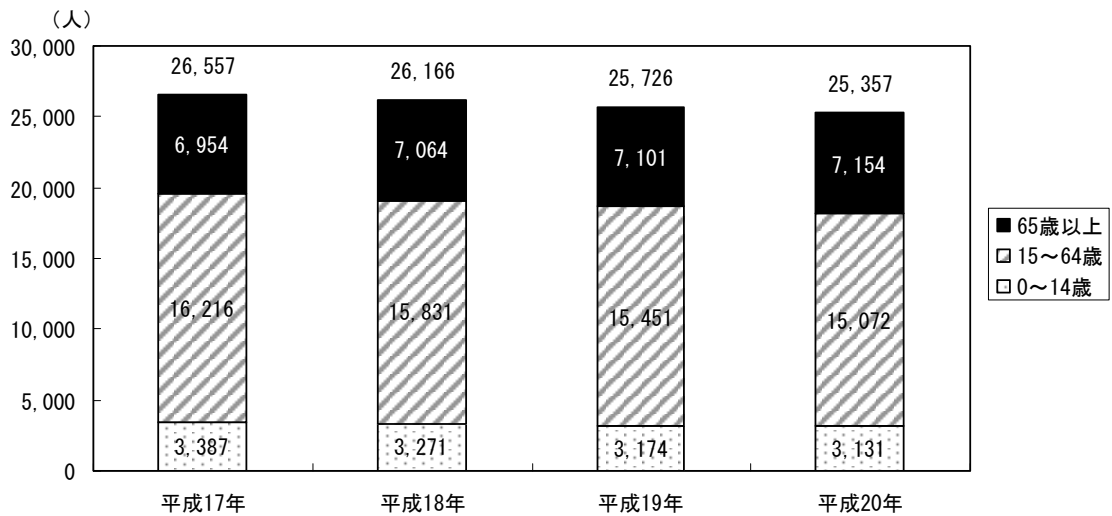


図 2-2 地区別の高齢化率（65 歳以上）の推移

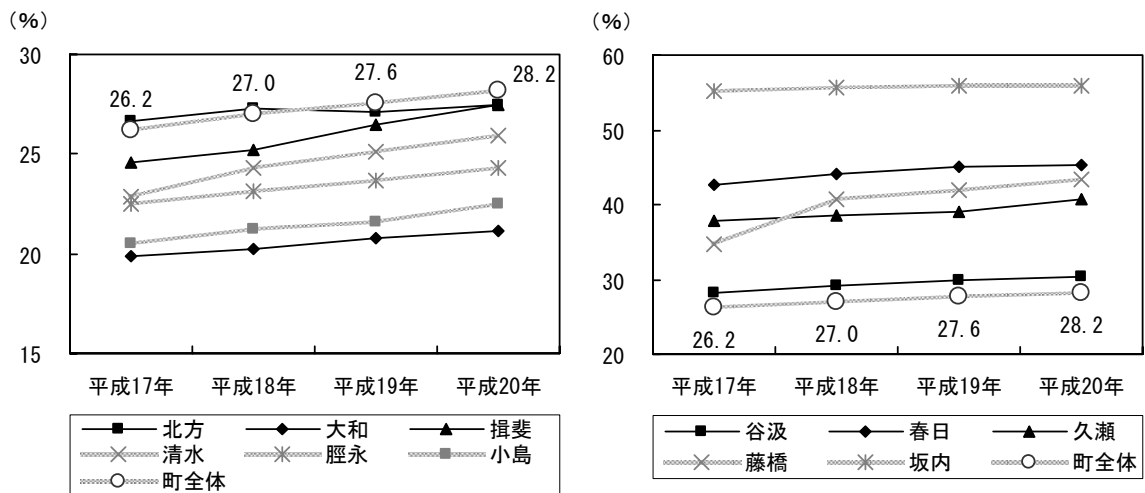
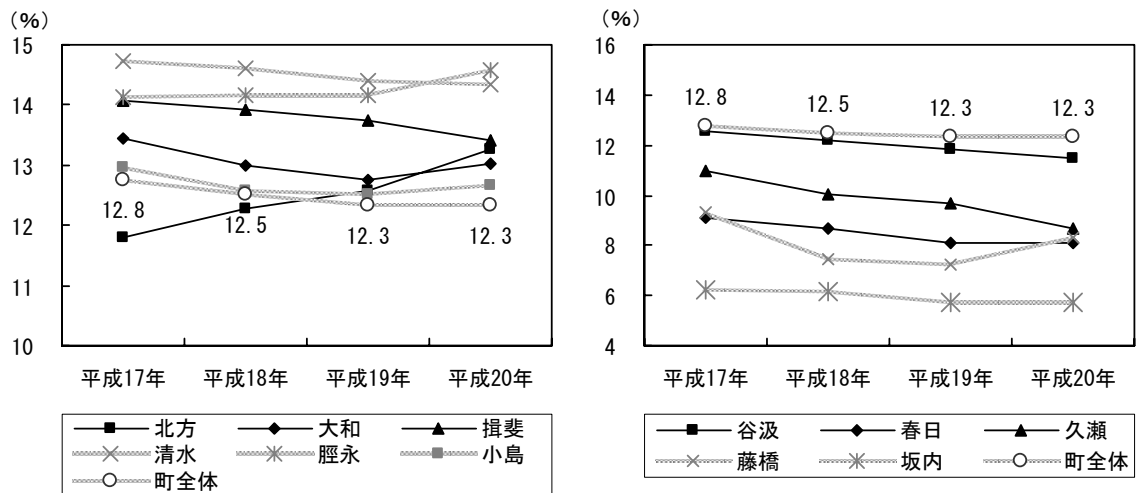


図 2-3 地区別の年少人口割合（14 歳以下）の推移



②人口動態

揖斐川町における自然動態（出生・死亡）人口の推移をみると、出生人数は増加傾向にあるものの、死亡人数が出生人数を上回っており、自然動態人口は減少傾向にあります。

藤橋、坂内地区では出生人数はわずかとなっています。

表 2-2 自然動態（出生・死亡）人口（住民基本台帳）の推移

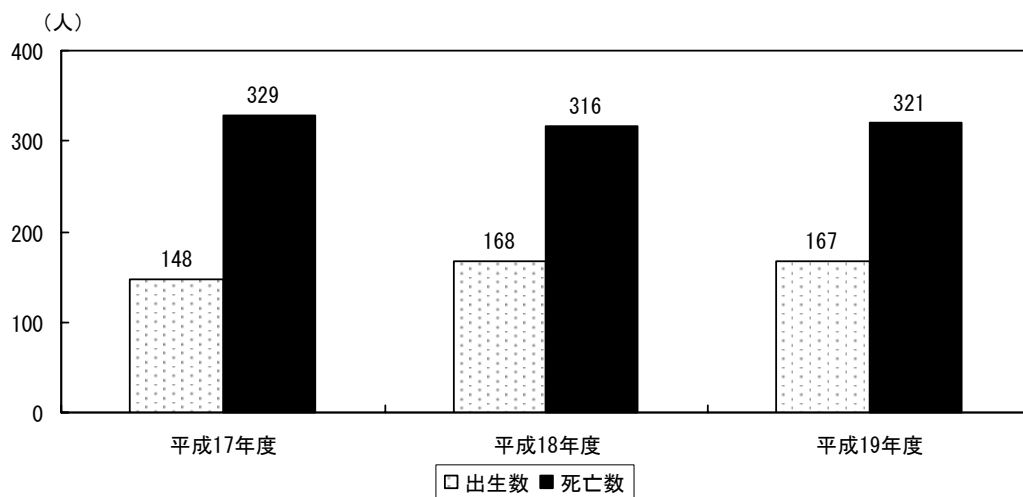
単位：人

		平成17年度	平成18年度	平成19年度
北方	出生数	17	18	21
	死亡数	17	17	27
	増減数	0	1	-6
大和	出生数	25	19	30
	死亡数	39	31	35
	増減数	-14	-12	-5
揖斐	出生数	24	29	23
	死亡数	46	49	44
	増減数	-22	-20	-21
清水	出生数	20	12	14
	死亡数	32	33	24
	増減数	-12	-21	-10
脛永	出生数	11	33	12
	死亡数	24	52	17
	増減数	-13	-19	-5
小島	出生数	22	20	31
	死亡数	44	14	49
	増減数	-22	6	-18
谷汲	出生数	18	22	24
	死亡数	50	43	48
	増減数	-32	-21	-24
春日	出生数	5	5	4
	死亡数	25	25	34
	増減数	-20	-20	-30

		平成17年度	平成18年度	平成19年度
久瀬	出生数	5	8	5
	死亡数	30	31	24
	増減数	-25	-23	-19
藤橋	出生数	1	1	1
	死亡数	8	5	7
	増減数	-7	-4	-6
坂内	出生数	0	1	2
	死亡数	14	16	12
	増減数	-14	-15	-10
計	出生数	148	168	167
	死亡数	329	316	321
	増減数	-181	-148	-154

資料： 庁内資料

図 2-4 自然動態人口の推移



また、社会動態（転入・転出）人口の推移をみると、各年度において、転出者数が転入者数を上回っており、社会動態人口は減少傾向にあります。

表 2-3 社会動態（転入・転出）人口（住民基本台帳）の推移

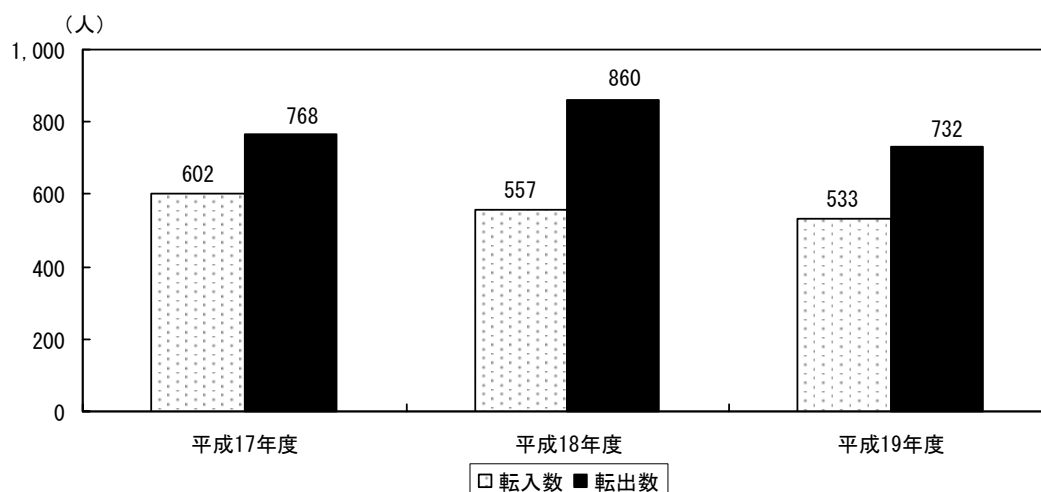
単位：人

		平成17年度	平成18年度	平成19年度
北方	転入数	41	51	43
	転出数	47	41	67
	増減数	-6	10	-24
大和	転入数	83	63	88
	転出数	105	111	131
	増減数	-22	-48	-43
揖斐	転入数	127	109	91
	転出数	155	197	135
	増減数	-28	-88	-44
清水	転入数	85	50	53
	転出数	72	73	38
	増減数	13	-23	15
脛永	転入数	46	93	42
	転出数	50	128	46
	増減数	-4	-35	-4
小島	転入数	93	46	91
	転出数	141	59	131
	増減数	-48	-13	-40
谷汲	転入数	52	75	62
	転出数	77	114	78
	増減数	-25	-39	-16
春日	転入数	19	22	17
	転出数	27	33	26
	増減数	-8	-11	-9
久瀬	転入数	19	18	15
	転出数	39	47	44
	増減数	-20	-29	-29

		平成17年度	平成18年度	平成19年度
藤橋	転入数	20	15	13
	転出数	42	41	22
	増減数	-22	-26	-9
坂内	転入数	17	15	18
	転出数	13	16	14
	増減数	4	-1	4
計	転入数	602	557	533
	転出数	768	860	732
	増減数	-166	-303	-199

資料：庁内資料

図 2-5 社会動態人口の推移



また、揖斐川町における合計特殊出生率（一人の女性が一生に産む子どもの平均の数）をみると平成 18 年にかけて増加しており、1.23 となっていますが、国の合計特殊出生率は、平成 18 年で 1.32 となっており、本町は下回っています。

表 2-4 合計特殊出生率の推移

	平成17年	平成18年
合計特殊出生率	1.04	1.23

資料：庁内資料

③世帯数の推移と家族類型構成率

世帯数の推移をみると人口は減少していますが、世帯数は横ばい状態です。また、1 世帯当たり人員数は緩やかに減少しており、平成 20 年には 3.09 人となっています。

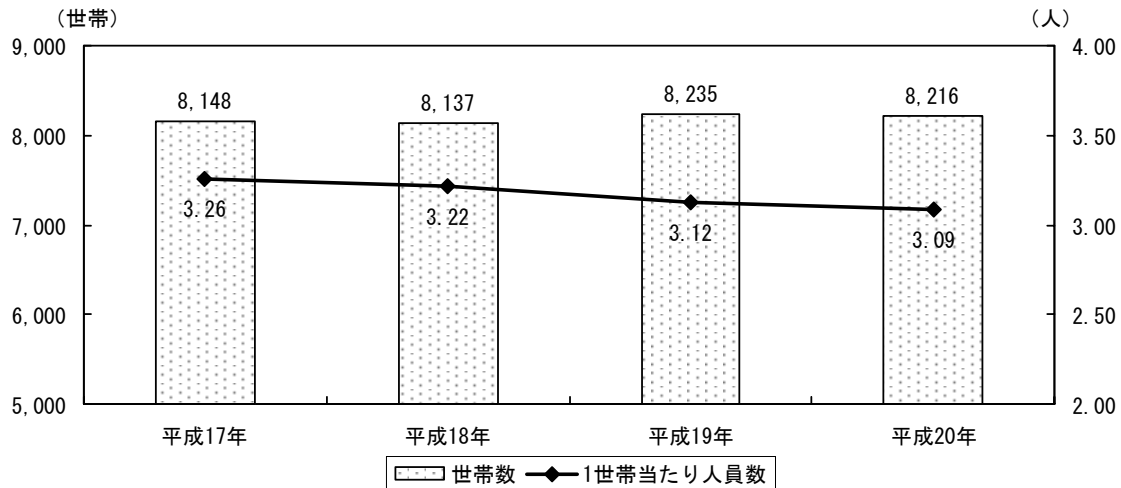
表 2-5 世帯数の推移

単位：世帯、人

	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年
世帯数	8,148	8,137	8,235	8,216
1 世帯当たり人員数	3.26	3.22	3.12	3.09

資料：庁内資料（各年 4 月 1 日時点）

図 2-6 世帯数の推移



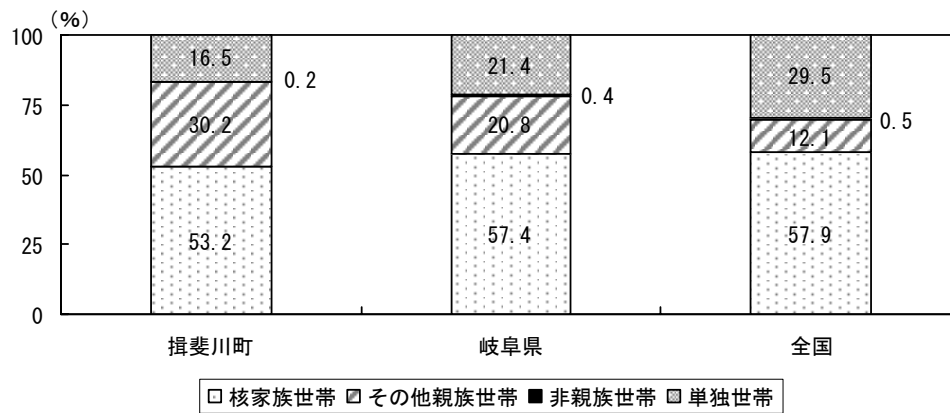
また、世帯の家族類型について全国・岐阜県と比較すると、揖斐川町においては単独世帯の割合が16.5%と低くなっています。

表 2-6 全国・岐阜県・揖斐川町の世帯の家族類型（平成 17 年 10 月 1 日現在） 単位：世帯

	核家族世帯	その他親族世帯	非親族世帯	単独世帯
揖斐川町	4,189	2,379	12	1,298
岐阜県	407,813	147,576	2,605	152,172
全国	28,393,707	5,943,679	268,061	14,457,083

資料：国勢調査

図 2-7 世帯の家族類型別構成率



- ※核家族世帯：二人以上の世帯員から成る世帯のうち、世帯主と親族関係にある世帯員のいる世帯で、夫婦のみの世帯、夫婦と子供から成る世帯、男親と子供から成る世帯、女親と子供から成る世帯。
- その他親族世帯：核家族世帯以外の二人以上の世帯員から成る世帯のうち、世帯主と親族関係にある世帯員のいる世帯。
- 非親族世帯：二人以上の世帯員から成る世帯のうち、世帯主と親族関係にある者がいない世帯。
- 単独世帯：世帯人員が一人の世帯。

(2) 要介護者や障がい者の状況

①要介護認定者数の推移

高齢者人口の増加に伴い要介護認定者数は増加傾向にあり、平成 16 年度に比べ平成 19 年度では約 1.16 倍（146 人増）となっています。

認定率も増加傾向にあり、平成 19 年度では高齢者の 15.0%が要介護認定者となっています。

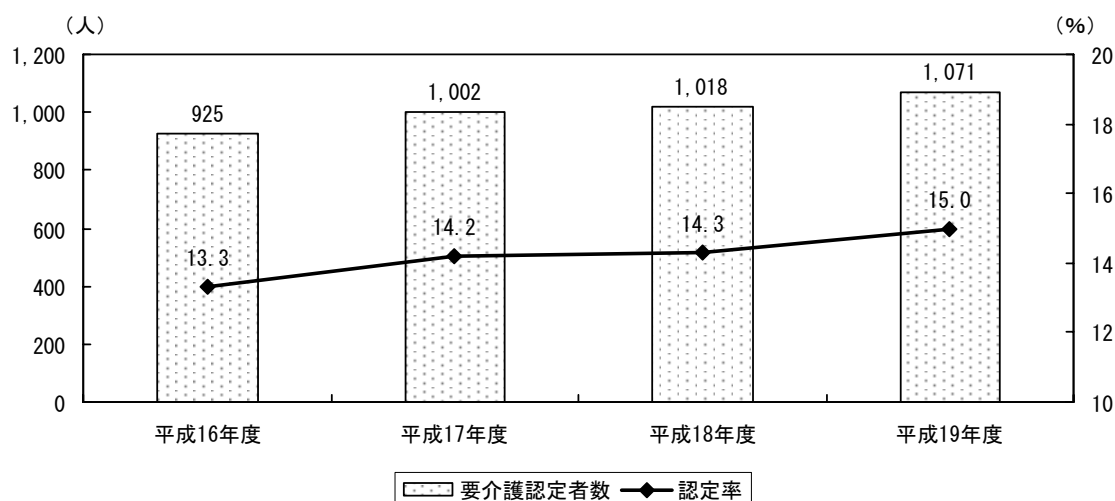
表 2-7 要介護認定者数と認定率の推移（各年度末時点）

単位：人

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
認定者数	925	1,002	1,018	1,071
高齢者数	6,955	7,061	7,098	7,151
認定率	13.3%	14.2%	14.3%	15.0%

資料：庁内資料

図 2-8 要介護認定者数と認定率の推移



②障がい者数の推移

障害者手帳交付者数の推移をみると、身体障害者手帳交付者、療育手帳交付者、精神障害者保健福祉手帳交付者共に増加しています。また、平成19年にかけて、精神障害者保健福祉手帳交付者の増加が著しくなっています。

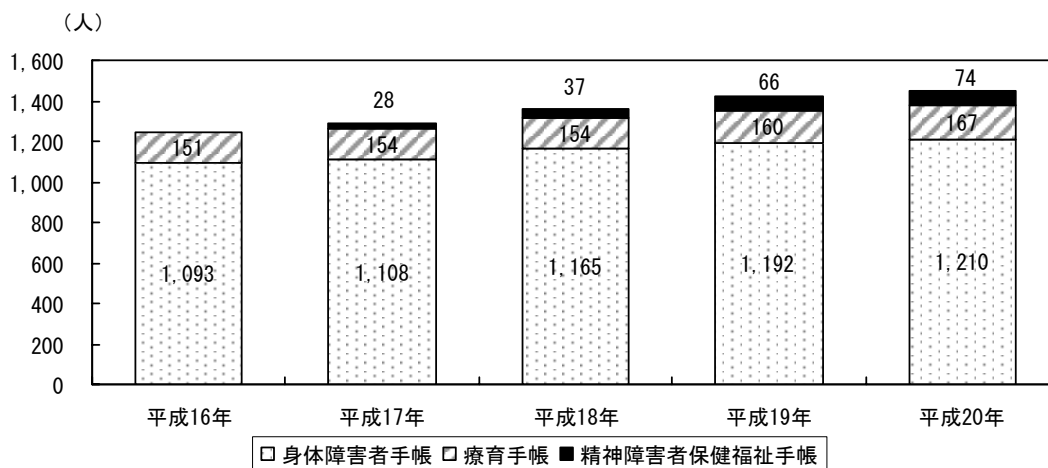
表 2-8 障害者手帳交付者数の推移

単位：人

	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年
身体障害者手帳交付者数	1,093	1,108	1,165	1,192	1,210
療育手帳交付者数	151	154	154	160	167
精神障害者 保健福祉手帳交付者数	-	28	37	66	74

資料：庁内資料（各年3月末時点）

図 2-9 障害者手帳交付者数の推移



（３）地域福祉を支える社会資源

①社会福祉施設の状況

町全体では老人福祉施設が 16 施設、障害者支援施設が 5 施設、児童福祉施設が 11 施設となっています。

表 2-9 形態別社会福祉施設数

単位：施設

	老人福祉施設等	障害者支援施設等	児童福祉施設等
北方	0	0	1
大和	0	0	1
揖斐	2	1	1
清水	4	1	1
脛永	0	0	0
小島	2	0	1
谷汲	5	3	2
春日	1	0	1
久瀬	1	0	1
藤橋	0	0	1
坂内	1	0	1
計	16	5	11

資料：庁内資料

②自治会などの状況

ア 行政推進員及び民生委員・児童委員、福祉委員

町全体では行政推進員が 126 人、民生委員・児童委員が 65 人、主任児童委員が 8 人、福祉委員が 263 人となっています。

表 2-10 行政推進員及び民生委員・児童委員、福祉委員数

単位：人

	行政推進員	民生委員・ 児童委員	主任児童委員	福祉委員	人口
北方	7	3	2	25	2,027
大和	17	4		37	3,301
揖斐	20	7		52	4,111
清水	6	3		17	2,149
脛永	7	3		24	2,024
小島	14	6		49	4,614
谷汲	24	11	2	25	3,588
春日	13	9	1	17	1,442
久瀬	8	8	1	8	1,260
藤橋	3	4	1	2	314
坂内	7	7	1	7	527
計	126	65	8	263	25,357

資料：庁内資料、社会福祉協議会資料（平成 20 年 3 月末時点）

イ 子ども会

子ども会の状況をみると、全体的には団体数、会員数共に減少傾向にあります。

活動としては地域活動や、スポーツレクリエーション祭、中央公民館まつりへの参加などがあります。揖斐川町子ども会育成指導者連絡会では、リーダーとしての自覚を深めるため、リーダー研修や育成指導者研修など実施しています。

表 2-11 子ども会の推移

単位：団体、人

		平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年
北方	団体数	5	5	5	5	5
	会員数	161	156	145	145	153
大和	団体数	17	18	18	18	18
	会員数	312	297	281	281	270
揖斐	団体数	20	20	20	20	20
	会員数	419	399	401	415	382
清水	団体数	10	10	10	10	10
	会員数	161	163	164	180	175
脛永	団体数	10	11	12	12	12
	会員数	174	185	179	177	186
小島	団体数	26	26	26	26	26
	会員数	393	384	373	380	382
谷汲	団体数	18	18	18	16	16
	会員数	311	316	305	280	264
春日	団体数	8	7	7	7	7
	会員数	103	91	83	76	74
久瀬	団体数	6	6	6	5	5
	会員数	124	108	96	94	81
藤橋	団体数	1	1	1	1	1
	会員数	25	31	17	14	14
坂内	団体数	4	1	1	1	1
	会員数	27	24	24	27	26
計	団体数	125	123	122	121	121
	会員数	2,220	2,154	2,042	2,068	2,006

資料：庁内資料

ウ 老人クラブ

老人クラブの状況をみると、高齢者数は増加しているのに対し、団体数、会員数共に減少傾向にあります。

福祉に関する活動として、施設訪問や地域内の見守り、地域によっては学校児童生徒の登下校の安全サポーターを行なっています。

表 2-12 老人クラブの推移

単位：団体、人

		平成17年	平成18年	平成19年	平成20年
北方	団体数	5	5	5	5
	会員数	438	433	431	436
大和	団体数	4	4	4	4
	会員数	576	595	569	556
揖斐	団体数	13	12	12	12
	会員数	978	933	923	886
清水	団体数	4	4	4	4
	会員数	329	280	291	292
脛永	団体数	3	3	3	3
	会員数	283	284	270	285
小島	団体数	8	8	7	6
	会員数	821	828	724	643
谷汲	団体数	10	10	9	9
	会員数	593	543	456	445
春日	団体数	4	4	3	3
	会員数	486	430	439	442
久瀬	団体数	6	6	6	6
	会員数	583	610	581	541
藤橋	団体数	2	2	2	2
	会員数	109	115	126	121
坂内	団体数	4	4	4	4
	会員数	323	327	293	301
計	団体数	63	62	59	58
	会員数	5,519	5,378	5,103	4,948

資料：庁内資料

エ ボランティア活動の状況

ボランティア活動を実施している団体数は町全体では 108 団体となっています。高齢者に関する分野で活動している団体が大半を占めており、75 団体となっています。

表 2-13 団体数の状況

	団体数
高齢者	75
障がい者	1
児童	9
施設	11
災害	7
環境	5
計	108

資料：平成 20 年度 社会福祉協議会 ボランティア調査

オ ふれあいいきいきサロンの状況

社会福祉協議会に登録している「ふれあいいきいきサロン」の設置数は町全体では 67 箇所となっています。サロンの内容はほとんどが高齢者活動です。

表 2-14 ふれあいいきいきサロン数

	サロン数
北方	6
大和	5
揖斐	12
清水	4
脛永	3
小島	6
谷汲	4
春日	8
久瀬	11
藤橋	2
坂内	6
計	67

資料：社会福祉協議会資料

カ NPO法人

郡内には「いびNPO法人連絡協議会」が設立されており、各種NPO法人が連携しています。町内では、まちづくり・福祉・環境・教育関係のNPO法人が7団体活動しています。

表 2-15 NPO法人数（事務所の所在地）

	法人数
北方	0
大和	0
揖斐	1
清水	0
脛永	0
小島	0
谷汲	3
春日	1
久瀬	1
藤橋	1
坂内	0
計	7

資料：社会福祉協議会資料

2 揖斐川町における地域福祉の課題

(1) 地域コミュニケーションについて

■ アンケート結果

- ・ 住みやすさについて、約 7 割が住みやすいと回答しており、特に年齢が上がるほど「住みやすい」と回答した人の割合が高くなっています。一方で、若い世代では住みやすいと回答している人の割合が低くなっています。
- ・ 近所との付き合いについてみると、あいさつ程度の付き合いをしている人は 9 割を超えており、日頃から助け合っている人が約 3 割となっています。地区別にみると、特に春日地区、坂内地区で日頃から助け合っている人の割合が高くなっています。
- ・ 今後の近所付き合いについてみると、「今のままでよい」が約 8 割となっています。
- ・ 困っていることや不安の相談相手をみると、「親族」が 8 割以上となっている一方、「相談できる人がいない」、「相談したくない」という回答がわずかながらあります。
- ・ 地域活動への参加状況をみると、約 5 割は参加していますが、20 歳代では参加状況が低くなっています。
- ・ 地域活動に参加している人のうち、約 7 割は、区の活動となっています。
- ・ 地域活動に参加していない理由は、勤務などの都合から参加していない人が約 3 割となっています。

図 2-10 近所付き合いの程度

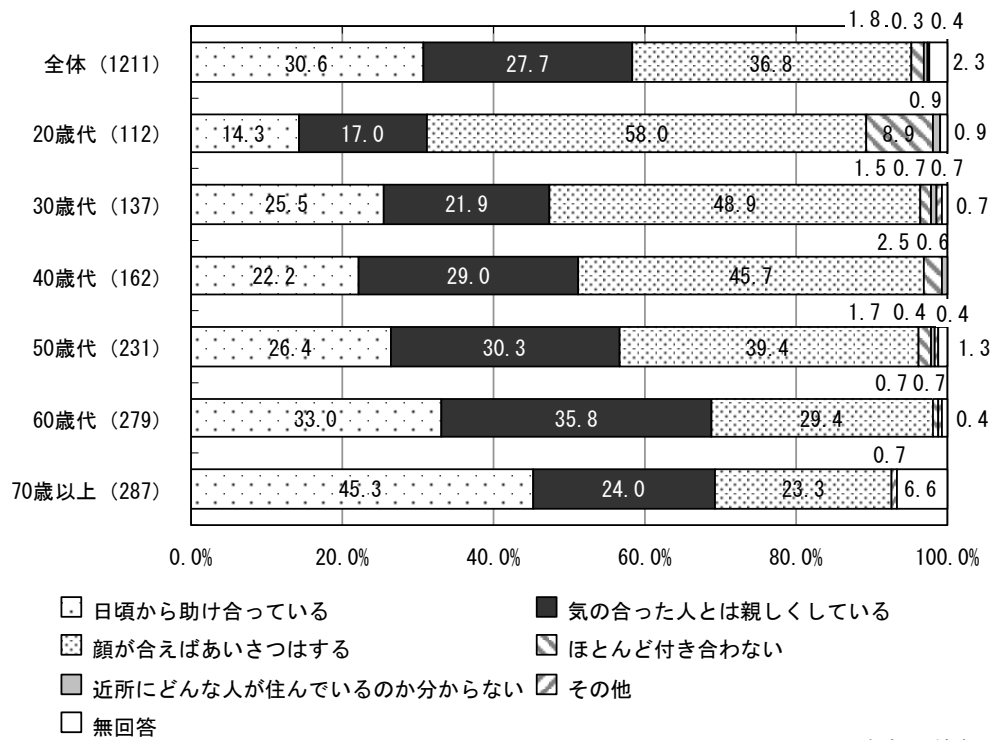
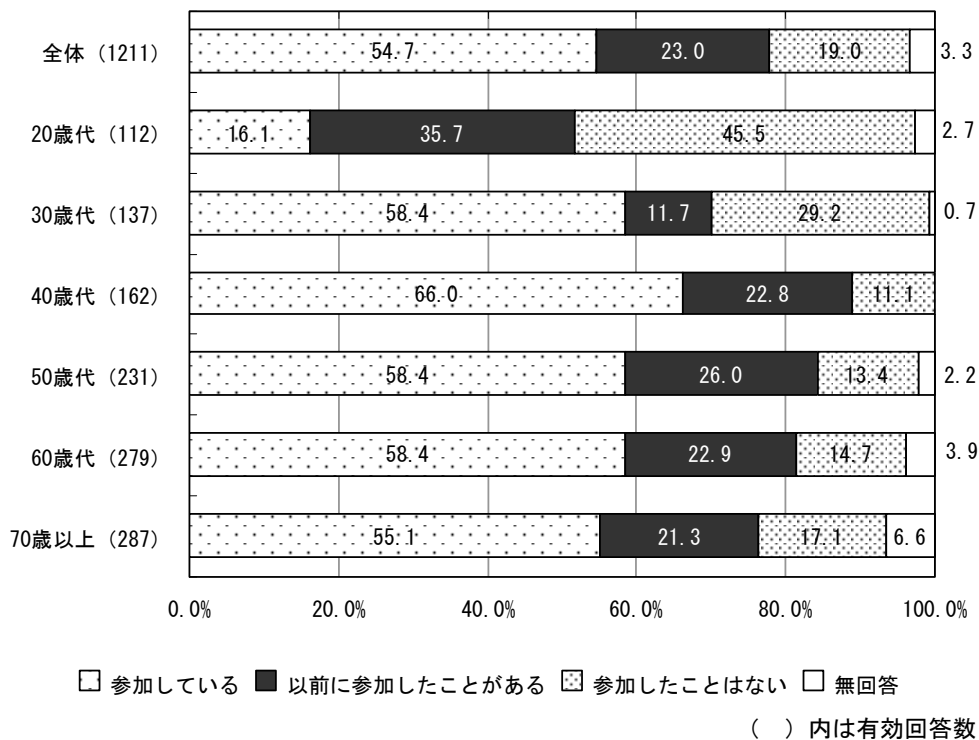


図 2-11 地域活動への参加状況



■地域部会からの意見

- ・近所付き合いが希薄化している。
- ・新しい住民とのコミュニケーションに工夫が必要である。
- ・高齢者の把握が必要である。
- ・地域の情報交換がしにくくなっている。
- ・地域行事への参加者が減少している。
- ・仕事もなく、買い物にも不便なため、若者が離れていく。
- ・若者が世代間の交流をもとうとしない。
- ・伝統の継承ができない。

■課題

- 地域住民のコミュニケーションやつながりを深め、助け合いがしやすくなるような地域づくりが必要です。特に若い年代に対して、地域での声かけや助け合いを啓発する必要があります。
- 交流の機会や場の提供により、様々な年代が地域活動に参加できるよう地域の連携を深めていく必要があります。

(2) 子育て環境について

■ アンケート結果

- ・生活環境の満足度をみると、子育てに関する環境の満足度が高くなっています。一方、公園などの憩いの場については満足度が低くなっており、安全に子どもが遊ぶ場が少ないことがうかがわれます。
- ・子育てについて地域で取り組んでほしいことをみると、「子ども同士が遊べる機会の充実」、「地域の子どもへの見守りと声かけ」が大切だと思う人の割合が高くなっています。

表 2-16 子育てについて地域で取り組んでほしいこと（複数回答） 単位：％

	有効回答数 (件)	子ども同士が遊べる機 会の充実	地域の子どもへの見守 りと声かけ	地域の子どもの安全のため のパトロール	子育てについて学習す る場の充実	子育てグループなどの 自主的な活動への支援	子育てを支援するボラ ンティアの育成	その他	無回答
全体	1,211	41.8	41.1	29.0	19.9	17.3	14.2	1.9	8.8
20 歳代	112	42.0	34.8	33.9	25.9	14.3	14.3	3.6	3.6
30 歳代	137	51.8	33.6	35.8	16.8	14.6	19.0	3.6	2.2
40 歳代	162	46.3	43.2	40.7	19.8	8.6	10.5	3.1	3.7
50 歳代	231	40.7	40.3	29.0	22.9	22.1	16.0	1.3	3.9
60 歳代	279	43.7	44.8	26.9	20.1	17.2	13.3	0.7	10.4
70 歳以上	287	33.8	43.2	19.2	16.7	20.9	13.2	1.4	18.8

■地域部会からの意見

- ・子どもが安全に遊べる場所がない。自然の中で遊ぶこともできない。
- ・共働き世帯が子どもを預けられる場所がない。(学童保育、未就園児が充実していない)
- ・子育て支援センターがある地域はよいが、ない地域は子育て支援が受けにくい。
- ・学童保育に地域格差がある。
- ・子どもの見守り、サポートが必要であるが、毎日行うのは大変である。
- ・世代間、家族間の交流が少ない。

■課題

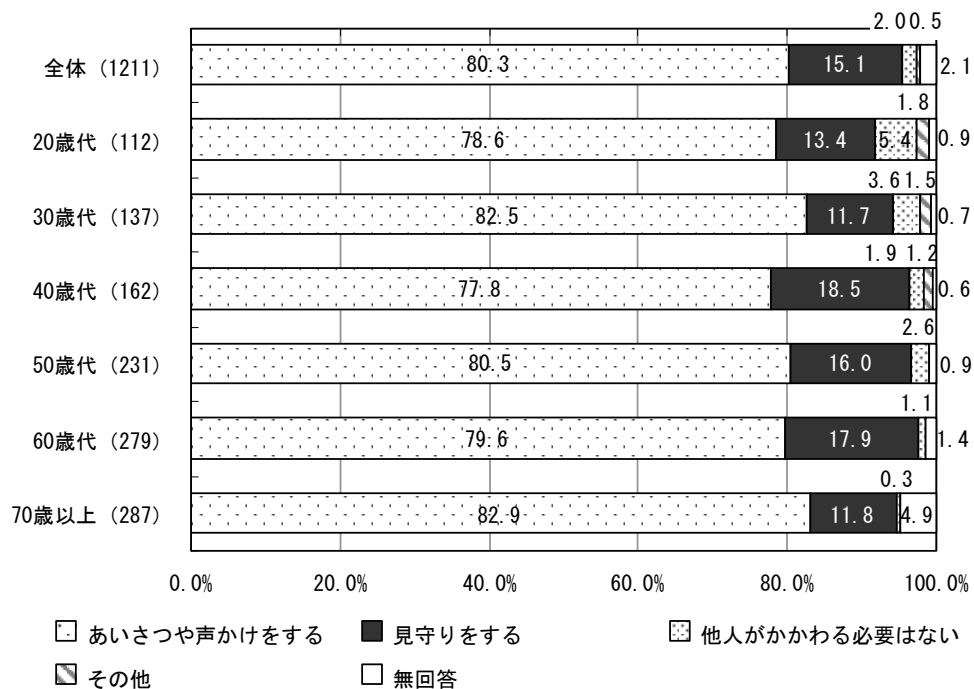
- 子育て支援の受けやすさに地域差があり、特に共働き世帯が身近に子どもを預けられる場所の充実が必要です。
- 安全に子どもが遊ぶことができる場を整備していくことが求められています。
- 見守り活動や声かけなど、地域で子どもを支えていくことが必要です。

(3) 見守り、支援について

■ アンケート結果

- ・近所の子どもや高齢者への接し方についてみると、「あいさつや声かけをする」が約8割となっており、特に40歳代や親と同居している世帯で「見守りをする」の割合が高くなっています。
- ・毎日の暮らしの中での困っていることや不安については、将来の老後に関することに不安を感じている人が多い一方で、70歳以上では「自分の健康に関すること」の割合が高くなっています。
- ・日常生活が不自由になったときに地域でしてもらいたいことについては、「安否確認の声かけ」の割合が高くなっています。
- ・民生委員・児童委員制度の周知度をみると、約3割の周知状況となっています。
- ・プライバシーの取扱いに関する考え方をみると、「個人のプライバシーの情報は、保護されなければならない」が約4割と個人情報保護重視の考え方の人が多くなっています。

図 2-12 近所の子どもや高齢者への接し方



() 内は有効回答数

表 2-17 日常生活が不自由になったときに地域でもらいたいこと（複数回答）単位：％

	有効回答数 (件)	安否確認の 声かけ	話し相手	ちょっとした 買い物	ゴミ出し	家の掃除	短時間の子ども の預かり	子育ての相談	その他	無回答
全体	1,211	60.6	30.7	27.8	12.5	11.2	6.9	1.7	5.3	6.0
男	545	62.9	34.7	22.4	14.7	9.5	5.3	1.1	6.1	6.1
女	656	58.7	27.1	32.6	10.8	12.8	8.4	2.3	4.7	5.8
一人暮らし	56	62.5	26.8	30.4	14.3	10.7	1.8	0.0	1.8	8.9
夫婦のみ	252	72.6	30.6	28.2	15.1	11.1	0.0	0.0	2.8	6.0
二世世代世帯 (子と同居)	294	58.2	32.0	30.6	10.2	12.2	10.2	2.4	3.7	5.1
二世世代世帯 (親と同居)	150	54.7	30.7	31.3	18.7	12.0	6.7	2.0	6.7	6.0
三世世代世帯 (子と親と同居)	212	53.3	26.9	26.9	12.7	11.8	12.7	3.3	8.5	4.2
三世世代世帯 (子と孫と同居)	125	63.2	40.8	18.4	5.6	10.4	4.0	0.8	6.4	8.8
三世世代世帯(親 と祖父母と同居)	60	63.3	30.0	26.7	6.7	6.7	10.0	3.3	6.7	1.7
その他	47	55.3	25.5	31.9	12.8	10.6	8.5	0.0	8.5	8.5

■地域部会からの意見

- ・個人情報、プライバシーの関係で、高齢者の問題に踏み込めない。
- ・1人で外出できない高齢者もいる。
- ・緊急通報装置の利用について、利点も問題点もある。
- ・福祉委員の業務を見直す必要性がある。
- ・多世代世帯の高齢者も心配である。
- ・一人暮らし高齢者への対応に苦慮している。
- ・認知症が増加しているが、対応に苦慮している。(相談窓口が分からない)

■課題

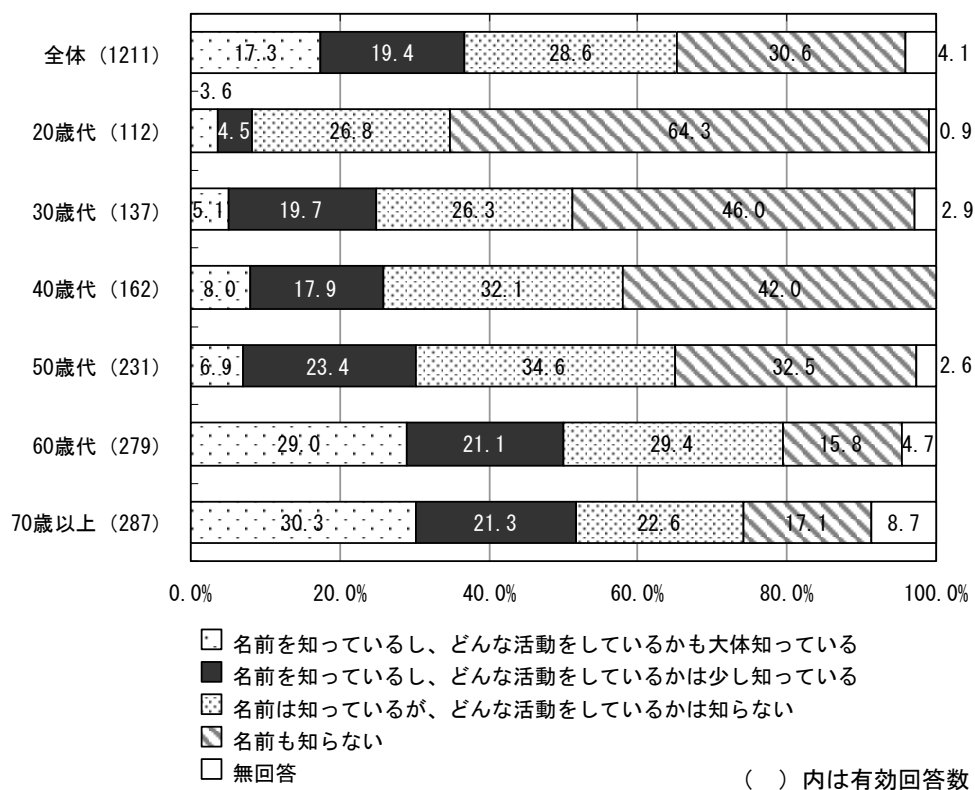
- 高齢者をはじめ、障がい者、乳幼児や児童など、支援が必要な人に対して、安否確認の声かけなどを中心とした見守り活動を行っていくことが必要です。
- 見守りを地域社会全体の問題としてとらえ、自治会や福祉委員、民生委員・児童委員などのつながりを深めて、地域で連携して支援していくことが必要です。
- 個人のプライバシーを尊重しつつ、支援が必要な人の情報を地域で共有できるようにしていく必要があります。

(4) 集える場所について

■ アンケート結果

- ・ふれあいいきいきサロンの周知状況をみると、約4割となっています。対象となる60歳以上においても約5割の周知状況となっています。

図 2-13 ふれあいいきいきサロンの周知状況



■ 地域部会からの意見

- ・ 昼間に気軽に集まることのできる場所が少ない。
- ・ いきいきサロンで安否確認をしている。
- ・ 集まって食事を取ると楽しく、交流も図ることができる。
- ・ サロンのある時間に家にいる人が少なく、参加する人が限られる。

■ 課題

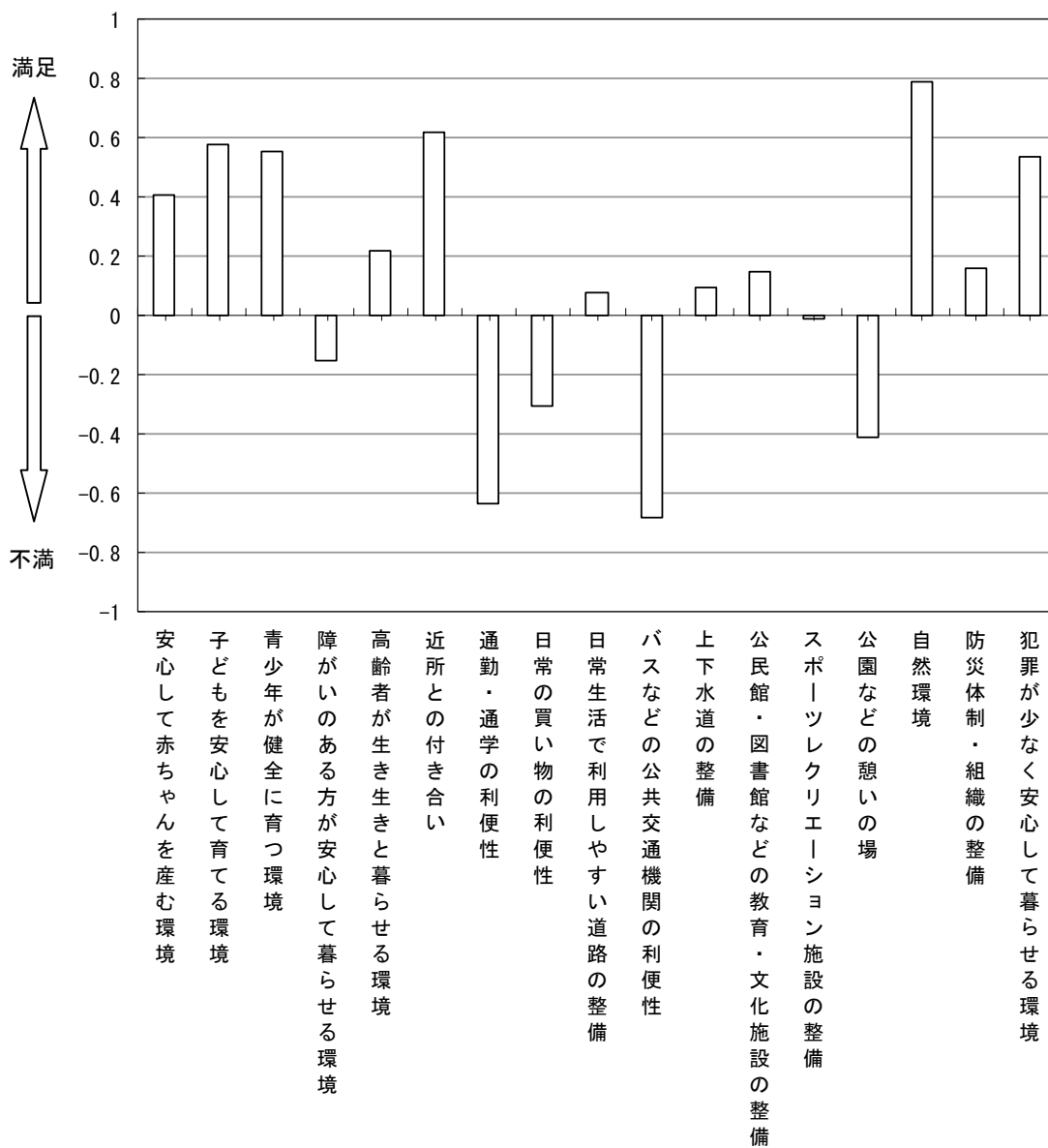
○ふれあいいきいきサロンの周知などにより参加を呼びかけ、生きがい活動の活性化を行い、交流できる場所や機会を充実させていくことが必要です。

(5) 交通手段・移動について

■ アンケート結果

- ・生活環境の満足度をみると、公共交通や通勤・通学、日常の買い物の利便性については満足度が低くなっています。

図 2-14 生活環境の満足度



有効回答数：1065 件

■地域部会からの意見

- ・自動車がないと買い物にも行くことができない。
- ・地域によってはバス停までが遠く、バスを利用できない。
- ・コミュニティバスの路線が不便である。まんべんなく回ってほしい。
- ・高齢者を送迎するのにボランティアが運転するのは事故が心配である。
- ・バス路線のない地域の交通確保が必要である。

■課題

- 高齢者や障がい者にとって公共交通による移動が不便であり、バスの利便性を高める運行方法の検討を進めるとともに、移送などの外出支援サービスを充実する必要があります。

(6) 災害・防災について

■ アンケート結果

- ・災害時における助け合いを行う上で必要なことをみると、50 歳未満では地域における援助体制の構築が大切と思う人が多く、地域の防災組織について、若年世代において特に重要と認識されています。
- ・被災後の生活で頼りにする人をみると、「家族」が8割以上であり、家族のいない人への対応が必要です。その中で、春日地区、坂内地区では、「近所の人」が高くなっています。

表 2-18 災害時における助け合いを行う上で必要なこと（複数回答） 単位：％

	有効回答数 (件)	日ごろからのあいさつ、 かけや付き合い	地域における援助体制の 構築	地域の要援護者の把握	要援護者に対する情報伝 達体制の構築	日ごろの避難訓練	災害ボランティアの育成	その他	無回答
全体	1,211	66.3	55.1	35.9	30.5	26.4	24.4	1.4	2.1
20 歳代	112	55.4	61.6	31.3	31.3	25.0	28.6	2.7	2.7
30 歳代	137	59.1	59.9	38.7	34.3	22.6	21.9	1.5	0.7
40 歳代	162	57.4	62.3	35.8	36.4	16.7	24.1	1.9	1.2
50 歳代	231	67.1	62.8	36.4	29.9	22.9	26.8	0.9	0.9
60 歳代	279	71.0	52.7	36.2	28.7	28.0	26.9	0.0	2.2
70 歳代	287	74.2	42.5	36.2	27.5	35.5	19.5	2.4	3.8

表 2-19 被災後の生活で頼りにする人（複数回答）

単位：％

	有効回答数 (件)	家族	親戚	行政 (役場など)	近所の人	友人・知人	自主防災会 (区長など)	社会福祉協議会	NPO法人	その他	無回答
全体	1,211	82.3	44.6	43.3	39.3	15.3	9.7	7.4	3.2	0.5	1.6
20 歳代	112	89.3	47.3	32.1	25.9	37.5	1.8	3.6	7.1	0.0	0.9
30 歳代	137	85.4	48.2	45.3	29.2	19.0	4.4	4.4	2.9	0.0	2.2
40 歳代	162	82.7	50.6	42.0	34.0	15.4	4.3	5.6	4.3	1.2	0.0
50 歳代	231	81.4	46.3	46.3	40.3	15.2	7.8	6.9	3.9	0.9	0.9
60 歳代	279	80.6	43.7	50.2	46.6	11.1	11.5	10.0	2.5	0.4	0.7
70 歳以上	287	80.8	38.3	38.3	44.9	8.7	18.1	9.4	1.4	0.3	3.5

■地域部会からの意見

- ・防災訓練にもっと真剣に取り組むべきである。
- ・地域の災害弱者の情報が入りにくい。
- ・災害時に交通が寸断されてしまう。

■課題

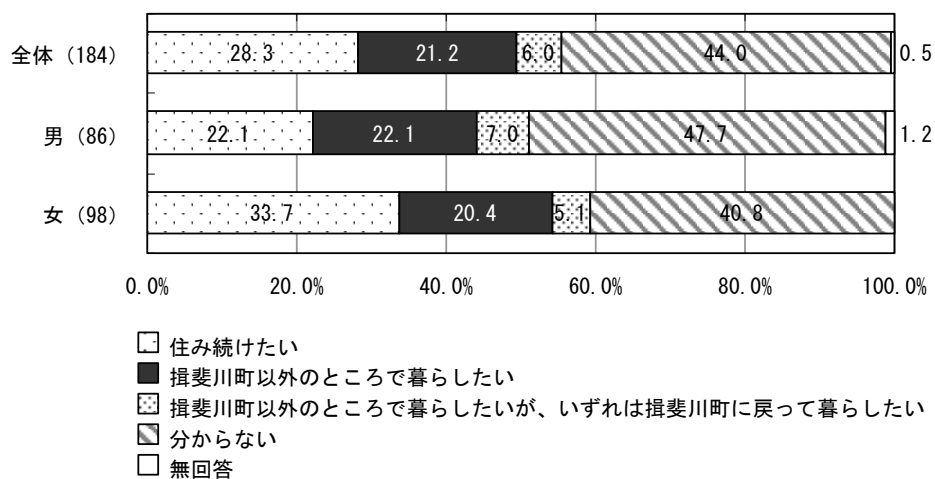
- 災害発生時に備えて、防災に関する基礎知識の普及、安全な避難のための訓練などが必要です。
- 高齢者や障がい者など災害対応能力の弱い災害時要援護者に対する支援が求められます。特に、家族のいない人への被災後の対応が必要です。
- 地域における自主防災組織の構築やその活動の充実が必要です。

(7) 中学生の地域福祉に関する意識

■ アンケート結果

○定住意向について、揖斐川町に住み続けたい人は約3割であり、特に男性は定住意向が低くなっています。定住意向が低い理由は、「田舎」というイメージや生活利便性が悪い、という理由が多くあります。一方、揖斐川町以外のところで暮らして、また戻ってくるという意見もみられました。

図 2-15 定住の意向

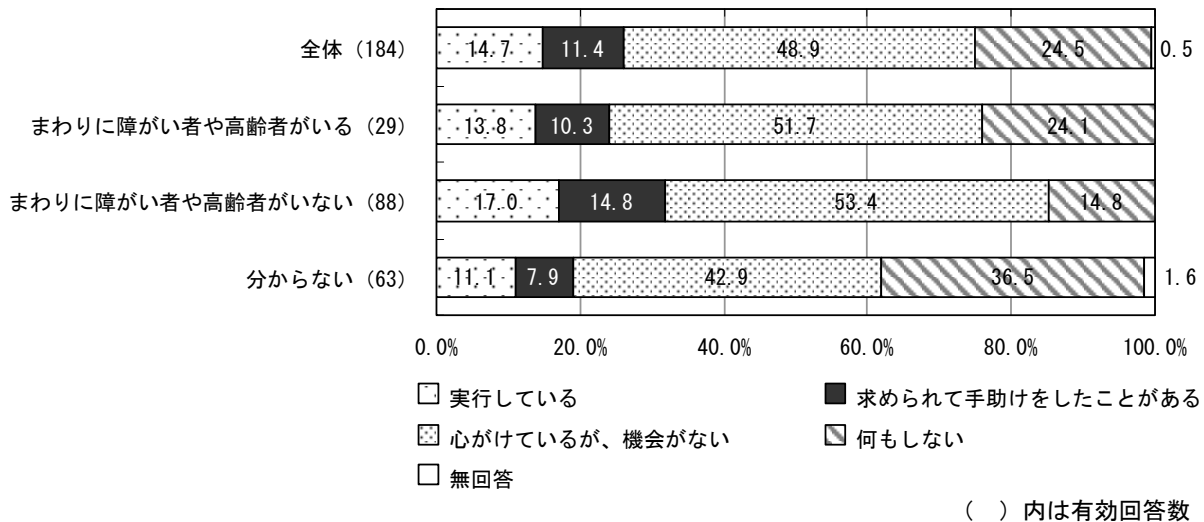


() 内は有効回答数

○地域での生活について、近所付き合いについてみると、あいさつ程度以上の付き合いをしている人は、約 9 割となっている中で、「顔が合えば、あいさつをする程度」が約 3 分の 2 となっています。

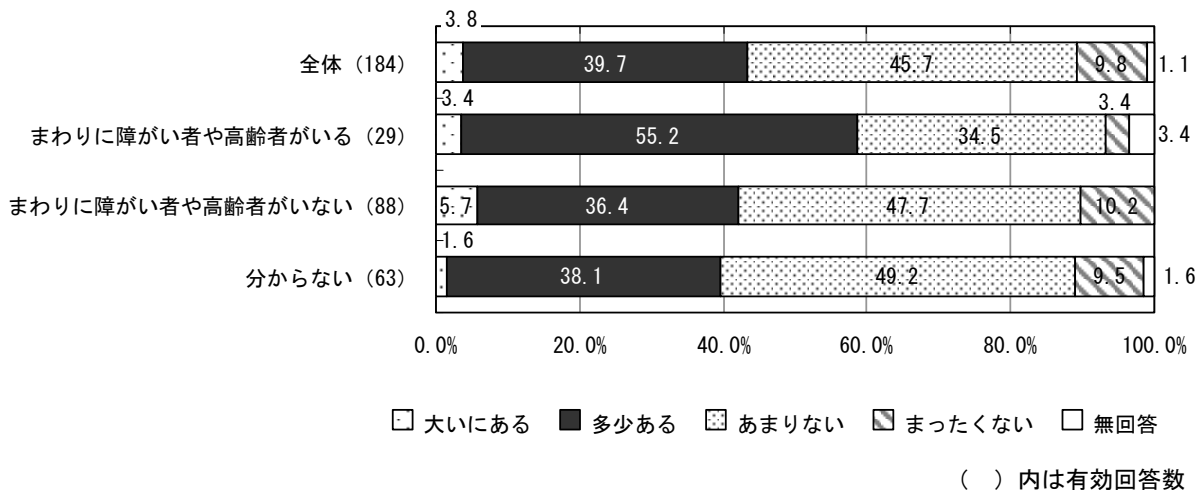
○困っている人を見かけたときの手助けを実行している人は約 15% となっています。また、「何もしない」と回答した人の理由をみると、「めんどうだから」が約 3 分の 1 となっています。

図 2-16 困っている人を見かけたときの手助け



○地域の助け合いや福祉などに関心のある人は約 4 割であり、地域の助け合いや福祉などに関心がある人の理由をみると、ボランティアの経験をし、やりがいを感じた人が約 4 割となっており、ボランティア活動の体験が重要となっています。また、地域の助け合いや福祉などに関心がない理由をみると、「めんどうだから」が約 5 割となっています。

図 2-17 地域の助け合い、福祉などへの関心



3 地域部会意見からみた揖斐川町各地区の現状と福祉課題

■北方地区

- 「子どもが安心して遊べる場所がない。」など子どもの遊び場についての意見が多く、子どもが安心して遊べる場所の確保が求められています。
- 「地域の見守りをしている社協ボランティアと行政推進員、民生委員・児童委員、福祉委員とが連携できていない。」「福祉委員は何をするものなのか、役割などが分かっていない。」など見守り、支援における福祉委員の役割や周囲の状況把握などについての意見が多く、連携による見守り体制の整備が必要です。
- 「地域の中に家族構成がはっきりと分からない世帯がある。高齢者についてはいくらか把握できているが、子どもについてはほとんど分からない。」「防災マップが配布されたが、その利用の仕方など、もう少し分かりやすい説明があったら良かった。」など災害への日ごろの備えについての意見が多く、災害に備えた情報提供や情報の共有が求められています。

■大和地区

- 「家族間の交流も少なくなっている。」「地域のつながりが薄くなってきている。」など家庭・地域の交流や世代間交流の減少についての意見が多く、地域のつながりづくりが課題となっています。
- 「幼稚園を卒園してから小学校に入学するまでの春休みの期間、子どもを預けられる所がない。」など子どもを預ける場についての意見が多く、安心して子どもを預けられる場の充実が求められています。
- 「児童への安全サポートを行っているが、地域の関心の度合いに差があり、この地区では協力体制があまり整っていない。」など子どもへの地域の働きかけについての意見が多く、地域ぐるみでの子育て支援や安全サポート活動の推進が必要です。
- サロンや公民館の活用など交流の場についての意見が多く、地域で集える場所づくりが必要です。

■揖斐地区

- 「地域の情報交換の場がない。」「一人暮らし高齢者同士の交流が少ない。」など近所付き合いが希薄になっていることについての意見が多く、地域のつながりづくりが課題となっています。
- 子育て支援センターの利用についての意見が多く、利用を促進するとともに子育て支援センターの一層の充実が必要です。
- 「最初のきっかけがなかなかつけない。」「サロンのリーダーになる人がいない。」などサロンの運営や公民館の利用についての意見が多く、サロン活動などの支援が求められています。

■清水地区

- 「福祉委員の仕事の内容が分からない。」「福祉委員のマニュアルがない」「全体の研修会だけでは、役割がよく伝わらない。」など福祉委員の役割についての意見が多く、研修の実施など福祉委員の活動支援が求められています。
- 「コミュニティバスは広い道路しか運行していないため、高齢者や足の不自由な人がバス停まで行けない。」「ボランティアで高齢者を乗せて送迎すると、事故などが心配。」など交通手段についての意見が多く、高齢者や足の不自由な人にも利用しやすい交通手段の確保が必要です。
- 「災害などがあったときに、だれとどのように連携してよいか分からない。」「町内ごとのボランティア養成、組織が必要。」災害に備えた情報収集やボランティアについての意見が多く、災害時の連携体制の整備が必要です。

■脛永地区

- 「元気な一人暮らし高齢者も多いが、1人で生活していくことは不安である。」「若い人と同居している高齢者が心配だが、なかなか声をかけられない。」など高齢者への声かけなどの対応についての意見が多く、気軽に声をかけ合える環境づくりが必要です。

■小島地区

- 「外で遊ぶ子どもをほとんど見かけない。」「親が安心して働けるように、託児所などがあると良い。」など子どもの遊び場や預ける場所についての意見が多く、子育て支援の充実が求められています。
- 「認知症の人が徘徊しているとしても、近所が知らなくては対応できない。」「一人暮らしの生活が長く、引きこもっている人がいる。」など状況の把握や独居高齢者への対応など見守り・支援についての意見が多く、高齢者の見守り活動の強化が必要です。

■谷汲地区

- 「あいさつ以外に、地域のつながりが薄い。」「婦人会がなくなったため、地域の情報把握ができなくなった。」など地域のコミュニケーションの希薄化についての意見が多く、地域の交流の活性化が課題となっています。
- 「地域住民に合った時刻表ではない様子であり、利用者もあまりない。」「バスの始発が遅く、高校生はバスで通えない。」などバスの運行や通勤・通学など交通についての意見が多く、交通機関の利便性の向上が求められています。
- 「地区から出て行く若い人も多い。」など若者の減少についての意見が多く、若者にとって魅力のある地域づくりが必要です。

■春日地区

- 「地域の中に若い人は少ないが、若い人も話し合いに参加してほしい。」など若年層の地域活動への参加についての意見が多く、世代間交流の活性化が必要です。
- 「元気な高齢者が家に閉じこもりつつある。」「見守りが必要となる高齢者・障がい者が増えている。」など地域の見守りについての意見が多く、見守りの組織づくりなど地域での見守り体制の構築が必要です。
- 「バス路線がない地域がある。」「交通手段が不足しているため、買い物が不便である。」など交通手段の不足についての意見が多く、交通手段の確保が求められています。

■久瀬地区

- 「学童保育がないと十分に働けない。」「障がい児保育、父子支援、母子支援など、対応が行き届いていないところがある。」など子どもを預ける場の確保や子育て支援についての意見が多く、子育て支援の一層の充実が求められています。
- 「来る人は来る、来ない人は来ないという二極分化の状況が続いていくのは問題である。」「地域で集まって、今以上に元気で生活できる場所があると良い。」などサロン活動についての意見が多く、サロン活動の充実など地域で集まる場所づくりが求められています。
- 「車を運転できない交通弱者は、買い物などができないため、生活しにくくなっている。」「高齢になると買い物の足（移動手段）に困る。」「サロンに行くための交通手段がない」など交通や買い物の不便さについての意見が多く、公共交通の利便性の向上や外出支援サービスの充実が求められています。

■藤橋地区

- 「家族構成が変わり、温かみがなくなってきた。」「子どもが地区にいないので、子どもと対話ができない。」などコミュニケーションの希薄化についての意見が多く、住民のコミュニケーションやつながりを深めていくことが必要です。
- 一方で近所付き合いの窮屈さについての意見も多く、話し合いの場をつくるなどお互いを理解する取組が必要です。

■坂内地区

- 「一人暮らしの高齢者が行方不明となり、見つからなくて心配したことがあった。」など高齢者への声かけや見守りについての意見が多くあり、緊急通報装置等の啓発活動を積極的に行い、高齢者が一人でも地域の中で暮らしていけるように地域が連携し行政推進員や民生委員・児童委員による情報共有が必要です。
- 一人暮らしの高齢者で足腰の弱い人が多く、医療機関等への移動に用いる交通手段（コミュニティバス）の本数が少なくとても不自由を感じています。
- 「土曜日・日曜日になると自動車等の交通量が多い」「カーブが多く見通しが悪い。」このため高齢者が交通事故に遭わないように、速度規制表示を早期に実施して欲しい等の要望等の意見が多く出され、安全な地域づくり活動の充実などが必要です。